

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 あさがおねっと守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	荷物の場所等の配置を変えるなど行い、死角がないよう	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適切である	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関にスロープがあったり、パソコン教室をするための	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	事業所会議にて意見を出し合い改善点を話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	モニタリング等を用いて保護者様の意向や要望を聞き、支援につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	88%	13%	ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	外部評価を頻繁には行っていない。 外部評価を行った際は改善につなげている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%	虐待防止研修や市の研修に参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	アセスメントの際に保護者の要望や児童の特徴を聞き、計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	使用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	会議で案を出し、検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	様々な活動を取り入れ固定化しないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	88%	13%	活動の余暇時間の長さによって行うプログラムを変えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別活動・集団活動のそれぞれの内容のものが入るように作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	会議の際に役割分担を行い、その日行う活動の進め方を話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	その日あった出来事や送迎時に得た情報を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	88%	13%	連絡帳やケース記録を用いて改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを実施し、計画書の見直しをしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%	0%	基本活動の中でSSTやビジョントレーニングなど合わせ支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管・管理者で参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	行事などで送迎時間の変更があった際には学校との連携を取っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	88%	13%	行なっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	状況に応じて行なっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	75%	25%	対象の児童がいなかったため現在はしていないが行なうことはできず	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	25%	研修を受け、連携している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	13%	88%	現在行えていない	外出支援などでしか関わることがないので、地域との交流などに参加する必要がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	現在行えていない	関係機関と連携し会議などに参加する必要がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や個別面談を用いて話し合い今後につなげるようにしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	あまり行えていない	家族支援プログラムを支援員全体で理解をし、支援を行う必要がある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に一つ一つ説明を必ず行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリングの際や送迎時に助言を行い、支援も実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	保護者会を開催し保護者同士の交流の場を設けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	担当の職員が対応することで適切な対応を行なう環境作りを実施している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	あさがお通信を発行し、活動の様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	ブログに載せる写真の加工や名の入った紙類の処分等に注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	相手に伝わりやすい言い方で伝えるなど工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	63%	38%	行事に地域の方も参加していたらよいようポスターなどを用いて設置している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%	緊急時の対応等を事前に話し合いマニュアル化に努めている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に防災訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待の研修を行うとともに虐待の起こらない環境作りをして	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	やむを得ず身体拘束を行うことがあることを事前に説明を行い、起こった際も複数の職員が説明できるようにし、その日のうちに保護者様に報告をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	報告があった児童については摂取しないよう注意している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	起こった内容を記録し、会議などの際に情報共有して	